

市民の図書館政策

Part 1 私たちが図書館に望むこと

～楽しさ・安らぎ・未来がある～

Part 2 私たちが図書館にできること

～市民と図書館は共に成長する～



静岡図書館友の会

2007年2月に開催された第11回静岡県図書館づくり交流会で、「私の図書館政策」「私の図書館体験」を公募しました。この市民の手づくり政策は、それに寄せられた原稿、及び当日のワークショップで出された意見、「私たちが図書館に望むこと」282項目「私たちが図書館にできること」186項目という政策案をもとに、「静岡市の図書館をよくする会」でまとめたものです。今後は「静岡図書館友の会」がひきついでいきます。

この政策はこれで完結ではありません。今後多くの市民の声を集め、関係の皆さんのご意見を伺い、官民協働でつくる「静岡モデル」として発展させ、よりよい図書館づくりに役立てたいと思っています。みなさまのご感想・ご提案をお寄せ下さい。

なお、文中に引用させていただいた公募文集「私の図書館体験」は、よくする会のホームページでも一部公表しています。そちらもぜひご覧下さい

わたしたちの図書館が、まちを変える

学校に行けなくても、
障害（しょうがい）や病気があっても、
資産や職がなくても、
組織に属していなくても、
日本人でなくても、

どんな立場にあったとしても、

「知るチャンス・学ぶチャンス・読むチャンス」が得られる社会

「知り方、学び方、読み方」を身につけることができる社会

「知る喜び、学ぶ喜び、読む喜び」が得られる社会

「知縁・学縁・読縁」を育む社会

そんな社会を作ることが図書館の役割です。

図書館は建物ではなく、あらゆる人々に、「知る権利、学ぶ権利、読む権利」を保障する社会システムであり、よりよく機能することで、市民を幸せにし、住みよいまちづくりを応援します。

100年後の子どもたちが「静岡市に住んでよかった！」と言ってくれる。静岡市を、そんなまちに変えていきましょう。

はじまりは図書館から

わたしたちの図書館がまちを変える

私たちは、これからの社会に望むイメージを、4つのポイントにまとめました。わたしたちのまちをそんな社会に変えていくために、図書館は大きな役割を果たします。

1 「知るチャンス・学ぶチャンス・読むチャンス」が得られる社会

仕事にせよ暮らしにせよ、今の社会を生きていくうえでは、知識や学習が、たいへん重要な役割を果たしています。「知るチャンス・学ぶチャンス・読むチャンス」は、人間らしい生き方のための、最低条件です。図書館は、あらゆる人に門戸を開き、全てを無料で提供することにより、こうしたチャンスをすべての人に保障します。

2 「知り方、学び方、読み方」を身につけることができる社会

暮らしのうえで、予想もしていなかったことに出合った時に、新しい知識や情報が必要になります。図書館は、多様な立場からの情報を提供することで私たちの自己決定の力を育て、また、情報に操作されず、誤った情報を見分ける力をつけるのに役立ちます。

3 「知る喜び、学ぶ喜び、読む喜び」が得られる社会

「知ること」「学ぶこと」「読むこと」は、人間にとって昔から最大の楽しみの一つでした。豊かな資料によって、この深い喜びをあらゆる層に提供するのが、今も変わらぬ図書館の大切な役割であり、私たちの一番の願いです。

4 「知縁・学縁・読縁」を育む社会

昔から、人は「知識」や「学び」や「読書」を通じて人間関係を大切にはぐくんできました。ITが世界を覆う時代においてもそのことに変わりはありません。図書館は病院と並んであらゆる階層の人々が知をもとめて行き交い集う「縁結び」の場です。

このように、図書館は知識を得、学び、読むために大きな役割を果たす場です。とりわけ公共図書館は、すべての住民に「知る」「学ぶ」「読む」権利を保障する機関であり、情報格差・教育格差を解消して誰もが豊かに生きる社会を作るのに重要な役割を果たします。

「学校に行けなくても、障碍（しょうがい）や病気があっても、資産や職がなくても、組織に属していなくても、日本人でなくても、どんな立場にあったとしても」とは、平等な「知る自由」の保障をもっとも切実に必要としている人々のことをイメージしています。そして、多くの人々は潜在的に、また間接的な関係まで含めれば誰でも、こうした境遇と無縁ではないでしょう。つまり私たちは皆、公共図書館のような公的機関の支えを必要としているのです。

この4つについて明確な目標を持ち、その実現に努めている図書館こそがよい図書館と言えます。私たちはこの観点から図書館を評価し、協力し、ともにまちづくりを進めていきたいと考えています。

私たちが、この社会で幸せに生きるために何が必要なのか考える中で、あらためて、図書館の役割、その大切さを確認しました。私たちは静岡市を希望に満ちた社会にするために、新たな一歩を踏み出したと思います。

はじまりは、図書館から

私たちが図書館に望むこと

～楽しさ・安らぎ・未来がある～

図書館は困ったときの助け、疲れたときのベンチ。新しい出会いの場。誰もが可能性を探せる広大な海。

1 人の集まる広場になる

図書館は情報と情報、情報と人、人と人を結ぶ。好奇心を満たす資料と情報があり、自らも発信できる交流の場。世代も、業種も、国籍も、すべてのバリアを超えて人の集まる、まちづくりの基地。

目標	政策
身近にあって、気軽にける	広い静岡市のどこに住んでいても、身近に図書館が使えるよう、図書館ネットワークを整備する
たのしく居心地よく過ごせる	ハード・ソフト両面で、高機能であるだけでなく、心地よさにも配慮した設計がされている。お年寄りや障害のある人にも使いやすくなっている
赤ちゃんからお年寄りまで、一生使える	赤ちゃん向け、退職者向け、パート主婦向け、など、様々な階層の要望に沿ったサービスプランを持つ
人が集まるまちづくりの核となる	あらゆる人に開かれた施設となり、生活の上で必要不可欠な情報を提供する。図書館で得た知識をもとに、まちづくりが進められる
地域情報の発信基地になる	静岡の地域情報を集め、編集し、発信する機能を持つ
新しい公共の広場となる	自治体・企業・市民がつながりあう場を提供し、互いに情報を共有できる環境を創り、協働で地域自治を進めていくための方針を持つ



結婚後の住まいを静岡市にしたことは、私の幸運な選択の一つと言える。とりわけ公共図書館を手軽に利用できたことは、その最も大きな恩恵だった。私を広い世界へ誘ってくれた図書館に心から感謝したい。（公募文集「私の図書館体験」より）

外国に暮らして8年になるが、一つだけ願いが叶うとしたら、静岡市の図書館を丸ごと私の暮らすイギリスに持ってきたい。自分の母国語の本を扱う図書館が何より一番恋しい。（公募文集「私の図書館体験」より）

2 過去から未来へ、地域を集める。世界を集める。

地域に密着した資料。世界的な視野に立った資料。まちづくりのヒントとなる行政資料。入門書から専門書まで。100年後を見据えた収集と保存。図書館の持つ財産は大きければ大きいほど、誰もが、より大きな知識の力をもてる。

目標	政策
ハイブリッド図書館となる	電子資料も印刷資料もあり、相互に参照できるような幅広い資料収集をする
初心者にもその道のプロにも役立つ	様々な分野で幅広い要求に応えられるように、入門書も専門書も集める
歴史を保存するアーカイブ機能	古い資料の保存に力を入れ、誰でもすぐ参照できるように整理する
役に立つ最新情報が揃っている	専門雑誌のコレクションを充実させ、記事を検索システムを持っている
地域情報や市民情報を収集・保存する	地域誌やミニコミなど、マスメディアに載りにくいもの、形の整っていないものでも、収集・編集・保存できる機能を持つ
行政資料を収集・保存する	公文書館の役割も兼ね、市民が行政を知る窓口となり、地域自治の記録を後世に残す

次世代のために財産を残す	短期目標によるばかりではなく、100年先をも視野に入れた運営・選書をし、保存システムを設計する
--------------	---

ずらり並んだ書籍の中から、数千年に及ぶ賢人たちの頭脳を探求する歓びと、世界中の人間に対する好奇心が、私を図書館に導きます。（公募文集「私の図書館体験」より）

ネット経由の情報収集が便利な時代。しかしながら、それと裏腹に、玉石混交の状況下で情報の裏を取る作業がいやが上にも増える。図書館が頼りになる今日的意味は、実にこの「裏とり」の作業である。（公募文集「私の図書館体験」より）

本当の歴史を知りたかったら、過去に書かれた本を読むことが一番大切なのだと思う。過去の本が今我々に役立っているように、我々は未来に生きる人にも今の時代の本を残しておかなければならない。これも図書館の大切な仕事の一つなのだと思う。（公募文集「私の図書館体験」より）

3 困ったときは図書館へ

誰に聞けばよいのか分からない多くの疑問「？」を、納得の「！」にしてくれる。情報格差を解消し、あらゆる課題の解決を応援する市民のお助け所「よろず相談所」
自分や社会の課題にも気付かせてくれる再発見の場。

目標	政策
あらゆる年代・あらゆる状況での生涯学習を支える	子ども、ビジネスマン、退職者、老人、主婦、失業者、外国人など、どのような事情のもとでも自分で学べる環境を整備し、支援する

生活に必要な情報を提供する	法律や財政など、とつぜん高度な情報が必要になったとき相談できる窓口となり、必要なものが提供できる体制を整える
健康や病気について正しい情報が得られる	基本的な健康・医療情報をそろえ、患者や家族のニーズに応じることができる。また必要に応じて専門医学図書館と連携するシステムが整っている
ビジネスを支援をする	個人の起業支援・就職支援、地場産業や農業支援など、必要な情報を必要な人が入手できるようにする
地域の自立を助ける	行政や議会の活動を支援したり、まちづくり・地域おこしを助けるための資料を収集し、適切な情報を提供できる人材を確保する
情報格差を解消する手だてとなる	個人では入手が難しかったり高価だったりする情報や、一般に流通していないもの、少数数のものも収集する。情報は無料で誰にでも提供する
少数派へサービスを拡げている	障害のある人・外国人・あらゆるマイノリティのための、広範囲な蔵書を持ち、多様な資料形態・サービスシステムを拡充し、専門スタッフを育成する
知る自由を保障する	どんな本どんな情報でも、利用者の要求があれば提供するという方針を明示し、それに対応できる職員と資料を育てる。プライバシーが守られている。あらゆる検閲に反対する方針を公表し、実践する

「権利としての健康／医療情報へのアクセス」
(木幡洋子・石井保志) より

患者の視点に立った資料により、患者は正しい病名や治療法を知り、また闘病や予後の生活の不安を軽減させる効果が期待される。また生活習慣病を予防する観点から市民の日常生活圏で気軽に利用できる施設に知識普及を図る必要がある。

このことから、健康・医療に関する資料を組織化・提供可能な施設が必要であり、かつ徒歩で利用できる立地環境にあることが望ましい。そのような要件を満たした施設に公共図書館を挙げることができる。

視覚障害者の私は「耳からの読書の楽しみ」にも「情報を得る」にも誰かの助けが必要です。図書の宝庫の中に、本の好きな音訳者のいることで、目の代わりに、レファレンスにと、力強く大きな喜びを得ています。
(公募文集「私の図書館体験」より)

レズビアン、ゲイ、バイセクシュアル、トランスジェンダーといったようなセクシュアルマイノリティといわれる人たちにとって、図書館の意味はとても大きい。そういった人たちのライフストーリーには「図書館に行ってトランスジェンダーで検索して出てくる本を全部読んだ」「図書館で同性愛について書かれた本を読んで、同性愛は異常じゃないと知りほっとした」といったようなくだりが本当によく出てくる。マイノリティにとっては1冊の本との出会いがまさに命綱であり、図書館が駆け込み寺とも言える。図書館はただの貸本屋ではない。マイノリティに生きる力を与え、多様性を尊重し、人と人との間に理解を結ぶことのできる大きなポテンシャルを持っている。(公募文集「私の図書館体験」より)

4 プロによるプロのサービス

図書館職員は情報提供、情報ナビのプロ。情報の水先案内人。機械にはない温もりのある対応、新鮮で正確な情報提供は経験と研修を積んだプロだからできる。次世代に繋がる人材確保と人材育成が成長する図書館を支える。

目標	政策
利用者も職員も楽しい図書館になる	本と人と図書館の好きな職員が、利用者の目線で、安定して働けるような組織にする。利用者のためのメディアリテラシー講座もある
専門情報のレファレンスが受けられる	職員はみな、情報提供・情報ナビのプロとして経験を積み、常に研修も受けているようにする

プライバシーや企業秘密に係わることで、安心して相談できる	専門家集団としての職業倫理を確立させるため、組織作りと研修をすすめる。公的施設としての公平・中立・守秘義務が保障されている
常に進化する図書館となる	新しいサービス・企画・運営を開拓できる、図書館経営のプロをそろえ、その経験やノウハウが次世代に受け渡されるシステムを持つ
顧客の期待以上のサービスを提供するのが本当のプロ。何人かの「スーパー司書」もしくはその予備軍が静岡に存在する。(公募文集「私の図書館体験」より)	
ニューヨーク公共図書館(SIBL)を視察しました。・・・ニューヨークの景気が後退したので財政難を乗り切るために、開館日を減らしたという選択の事実を目の当たりにし、ショックを感じずにはいられませんでした。ニューヨークはビジネスの最先端をいっています。ライブラリアンは断腸の思いで「月曜閉館」の選択をしたのだと思います。しかし、同時に、ニューヨーク図書館の選択は間違いではなかったとも思いました。経費削減により、減った人員で同じ開館時間を維持すれば、どんなに頑張ってもサービスレベルの低下は免れません。・・・いつの日か、またSIBLが月曜開館となるよう祈っています。(公募文集「私の図書館体験」より)	



5 つながる 分け合う 広がる

図書館は、他の図書館と繋がり、博物館など図書館以外の施設とも繋がることで、サービス力を何倍にも高める。情報資源も人的資源もみんなの共有財産になれば、境遇や地域の格差も解消できる。

目標	政策
全国の図書館が持っている財産を利用できる	地域から国まで、公共図書館ネットワークでつながって、情報・ノウハウ・資料を共有し、提供しあって、より高度なサービスができるようにする。そうした全国システムに参加し、またそれを支える
図書館以外の情報源への窓口となる	専門図書館や大学図書館、美術館・博物館・歴史資料館・産業館・商工会議所などとの連携を拡げ、広範囲な情報提供をする。さまざまな専門家との情報ネットワークを持っている
行政内の他部局との連携ができています	保健所とブックスタート、国際課と多文化サービス、産業政策課とビジネス支援、のように、行政サービスのあらゆる部門と図書館との連携によって市民サービスを広げる

6 学校・子ども・子育てを支援する

子どもたちの「知る」「学ぶ」「読む」ための知的好奇心を喚起し育み、平和な社会を築く自立した市民になるための土台づくりをしてくれる。学校にも地域にも、生活圏に本があり、情報があり、手渡す人がいる。子どもも図書館も地域の宝もの。

目標	政策
子どもを大事にしている	子どもの本やサービスに精通した児童図書館員がいて、子どもの要求に適切に対応できる
学校図書館への支援と連携	学校図書館とネットワークを組み、資料提供や研修などの支援をする
子育て・孫育て支援	子どもを連れて居心地よくすごしたり、交流できる場を提供する。また子どもと参加できるプログラムを充実させる

子ども読書推進計画の実行拠点となる	子どもが図書館を使って本を選び、読む力をつけ、自ら学ぶのを手助けできる、職員と蔵書とサービスを整える
-------------------	--

図書館は子どもの好奇心を支え、母である私を育ててくれた。どうしていいか途方に暮れたとき、うれしいとき、図書館はその大きな掌で受け止めて応援してくれた。困ったら、図書館が必ず助けてくれるだろう。
(公募文集「私の図書館体験」より)

7 情報公開と市民参加

図書館のありようは、そこに住む市民の成熟度が試される自治体の文化のバロメーター。情報公開をする図書館と、図書館を育て応援しマナーを守る市民。図書館は市民参加のまちづくりのモデルとなる。

目標	政策
市民参加による運営をしている	行政と市民とが協働して図書館づくりを進めるため、より広範囲な市民参加のできるシステムを確立する
図書館自身の情報公開ができている	情報公開は市民参加や市民と行政との協働に不可欠と位置づけ、積極的に進める
効率やサービスが向上し続ける図書館となる	公共図書館の設置目的に沿った業績評価基準を市民参加で設定し、評価を公表し、それに基づいて運営やサービスを改善する



私たちが図書館にできること

～図書館と市民は共に成長する～

図書館は常に変わり続ける。市民が望んだとおりに。市民が育てたとおりに。図書館が変われば市民が変わる。市民が変われば図書館が変わる。

1 図書館を使って図書館を育てる

書齋代わりに図書館を使う達人になろう。利用の質と頻度を高めれば、職員のレファレンス技術もサービス精神も練成される。いいサービスを受けたときは感謝の気持ちを伝えよう。おかしな施策にはNOと言おう。税金の払い甲斐のある図書館は市民が作る。

活動	内容
図書館をたくさん利用する	本について質問したりレファレンスすることは、図書館員に経験を積ませ、図書館を育てることになる
図書館をよく知る	単なる公共サービスの消費者としてではなく、出資者（納税者）・共同参画の立場から図書館を理解してゆく
図書館員との交流の場をつくる	パートナーとして一緒に図書館を支えるために、協力関係を育て、共に研修の機会をもつ
図書館利用者をレベルアップさせる	良い利用者は図書館をレベルアップさせ、レベルアップした図書館は利用者をさらに育てる。そのためにまず自分たちをレベルアップ

2 図書館を広める・図書館を助ける

図書館で得た情報が人生の転機に役立った。図書館で読んだ本が悲しみを癒した。図書館で出会った人が今まで縁のなかった世界を見せてくれた。だから知らない人に伝えよう。「図書館ありがとう！」「図書って、こんなに役立つよ」そして、図書館が困っていたら、みんなで助けに駆けつけよう

活動	内容
図書館をPRする	まだ図書館をよく知らない人、使いこなせていない人に、同じ利用者の立場からPRしてゆく。図書館が自分では発信しにくいことを代わりに広めてゆく
図書館サポーターをふやす	図書館が好き、図書館に協力したい、と考えている人を掘り起こし、積極的なサポーターになってもらう
行政や議会に働きかける	市民はこんなに図書館を利用し、図書館のレベルアップを望んでいることを行政や議会に知らせてゆく。また、選挙の時には、図書館政策に注目していることを候補者に伝え、関心をよせてもらう。

3 市民パワーを図書館に集める

図書館と市民活動は車の両輪。互いに役割分担を明確にし、協働で図書館づくりをすすめよう。行政と市民が対等の立場に立ち、提案し、話し合い、交流する。小さな力も集まれば何かができる。信頼関係があれば何かができる。

活動	内容
図書館を支える力をつける	(仮称)友の会をつくり、図書館と市民がパートナーシップをもって共に活動するための基盤とする
市民の持っている知識や技能を提供する	専門知識や職業体験、あるいは趣味の知識を提供し、また様々なボランティア活動で図書館を支える
図書館との協同事業を提案する	市民参加が図書館の下請作業にならないよう、ボランティア活動を市民と図書館との協同事業として位置づけ、積極的に提案してゆく
図書館の活動を比較・評価する	図書館の活動を市民の側から評価して、改善策を提案したり、よい仕事をした図書館職員を表彰する

4 資料や資金集めに協力する

お金のある人はお金を、時間のある人は時間を、技術のある人は技術を！ それぞれが持てるものを提供しよう。行政ではできない仕事を見つけよう。市民参加の第一歩は「集める」から。

活動	内容
市民情報・地域情報・映像情報などを集めて提供する	手間がかかって図書館では集めにくい資料、特に静岡の地域情報・市民情報を集めて、図書館に提供する。集まった資料の整理ボランティアもできる。
資料収集・寄贈の呼びかけをする	図書館が必要としている資料の寄贈元を探す。市民が資料を寄贈しやすいシステムを提案し、協力する
資金集めやバザーを行う	友の会でブックリサイクル市を開いて収益を寄贈する、図書館への寄付金の受け皿となる、など、寄付金集めに協力する



本の養子制度

「アダプト（養子）図書」というしくみはどうでしょうか。まず図書館が、予算上買いたくても買えない本、蔵書に加えたいと思う図書のリストを Web で公開します。それを見て地域住民が、これなら自分でも良いと思う本を選び、購入して読んだ後に「養子」として図書館へ寄贈するわけです。図書館は本がそろろうし、住民も、自分の「養子」がいる図書館と思えば、もっと関心を寄せるでしょう。

（第 11 回静岡県図書館づくり交流会での北大路信郷氏講演より）



しずとも「図書館を知る」シリーズ：中級編

市民の図書館政策

2007年 5月 発行

2008年 11月 再版

編集・発行 静岡図書館友の会

TEL（携帯） 080-6910-9434

月-金 10時-15時

Email sizutomo2008@yahoo.co.jp